DENSO

9 月度 例会 個人 山 行 報 告 書

報告者	津田　廣一	参 加 メンバー	CL;岸上　薫 吉川 浩行 津田　廣一
報告日	11／13		

山 域	北アルプス	山行日	13 年 10 月 13 日（日）
山 名	北穂高岳・涸沢岳		
山行目的	紅葉の秋山を楽しむ（親睦と少し冒険）	コースタイム（天候：天気図記号）	

配布先
集会:12
山行: 1
ﾘｰﾀﾞｰ
原 紙：集会担当者

ルート図（地図を見て正確に）

2.5 万分の 1 地図： 穂高岳

10/13 晴れ
04:15 起床
06:30 涸沢発
07:30 一本（5 分）
08:57 北穂高岳山頂
09:27 北穂小屋発
10:30 一本（10 分）
11:24 涸沢岳山頂（20 分）
12:00 穂高岳山荘
（A隊と合流）
13:15 涸沢小屋着

北穂山頂手前、梯子を登りきると、雷鳥の出迎え

縦走路から槍ヶ岳を望む

縦走路より涸沢岳を仰ぎ見る

〈山行報告〉 寒さで 2･3 度、眼を覚ましたせいか、ウトウトと眠りを貪っていると、「金子さ～ん、起きて下さぁ～い！」と、悲痛な小久保の声。予定より遅れて 4 時 15 分。急ぎシュラフを片付け、隣テントからの声を待つ。「準備OK、入って下さい」の声に、ジャンボエスパースのテントへ。女子 3 人衆も入って、全員集合。朝食を食べ、今日のスケジュールを確認。昨夜、新雪が降って、数センチ程、積っていたとの事。出発を遅らせようと提案するも、北穂パーティは 6 時 15 分発と岸上Lは大張り切り。急ぎ出発準備。今日、涸沢を下山という有希ちゃん夫妻も入れて集合写真を撮り、6 時半出発。早々に登り口を間違え、上から「道が違いますよ！」の声。引き返し、岩に北穂と書かれたペンキを発見。改めて、登り出すと長野県警の警官から、「安全の為、奥穂への縦走は止め、北穂ピストンにして下さい」との事。奥穂へ登りたい 3 人が、A隊へ合流、3 人となった。トップを吉田君から、吉川君に交代。陰になった箇所で、昨夜の雪が登山道にチラホラと目につく。ポレポレペースで、滑らない様に注意して登っていく。急登なのに、汗もかかない。1h程、登った所で、ようやく暑くなってくる。上着を脱いで、一休み。岩の上に、うっすらと新雪が残り、吉川君はより慎重だ。「ここを降りるのも厭だな」と、3 人で話しながら登る。休憩中の先行パーティに追いつき、そのまま登り詰めると、北穂の山頂。握手を交わし、写真を撮る。寒いので北穂小屋まで降りて休憩。小屋の人に奥穂への縦走について確認。「雪も溶けてきており、慎重に行って下さい」との事で、縦走を決定。吉川君に代わってトップで歩き出す。日陰にくると雪が残り、慎重に降り、登る。南面に廻ると、雪も溶け、ホッとする。急峻な岩場を、悪戦苦闘の登下降を繰り返す。捨てロープを頼りに岩峰の一つのピークへ登ると、道の間違いに気づく。行く手に降り口を探すが、一歩間違えると危なそうだ！ 反対側に岸上が、降り口を見つけ、縦走路に戻る。最低のコル付近の広場で 1 本。再び、慎重に岩場を攀じ登る。涸沢岳山頂へ着きホッとする。山頂の景色を楽しんで、降りていくと、A隊と穂高山荘付近で合流、喜びが溢れる。一緒に下山し、充

〈リーダー所見〉
今回は、リーダーとして反省だらけの山行でした。やはり、雪を甘く見すぎていたところがあり、出発時間の判断、登るか登らないかの判断に迷いがあったが、津田さん・吉川さんと一緒という事もあり、行けるという判断をした。本来は、装備と技量を含めて、出発前にパーティーで相談する事が必要であり、今後の秋山登山の糧としていきたい。ただ、良かったな～。

槍をバックに
北穂山頂の 3 人衆です

確認（ﾘｰﾀﾞｰ）
岸上
1311.1

作成（報告者）
津田
13.10.31